

(トップページ: <http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(MENAランキングシリーズ: <http://mylibrary.maeda1.jp/MENAranking.html>)

マイライブラリー:0529

(注)本稿は2021年4月3日から17日まで5回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

掲載日:2021.4.21

前田 高行

日本は世界120位、政治参画分野の低さが致命的—世界と中東主要国の「男女格差指数」

(世界ランクシリーズ その5 2021年版)

国連などの国際機関あるいは世界の著名な研究機関により各国の経済・社会に関するランク付け調査が行われている。これらの調査について日米中など世界の主要国及びトルコ、エジプト、イランなど中東の主要国のランクを取り上げて解説するのが「世界ランクシリーズ」である。

第5回のランキングは世界経済フォーラム(WEF)が行った「世界男女格差報告2021(The Global Gender Gap Report 2021)」をとりあげて比較しました。

* WEF のホームページ:

<https://www.weforum.org/reports/global-gender-gap-report-2021>

1. 「世界男女格差報告2021」について

「世界男女格差報告2021(The Global Gender Gap Report 2021)」(以下「2021年版報告書」)を公表した「世界経済フォーラム」(World Economic Forum, WEF)は、スイスのジュネーブに本部を置く非営利団体であり、毎冬スイスのダボスで行われる「ダボス会議」の主催者としてよく知られている。

「2021年版報告書」は世界156カ国を対象に経済、教育、健康、政治の4つの分野について、世界或いは各国の公的機関が公表する男女別のデータに基づき、それぞれの分野の男女間の格差を指数化し順位付けを行ったものである。

(1)比較対象される分野とその内容

対象とされるのは以下の4つの分野であり、各分野にはそれぞれ二つ乃至五つの比較項目がある。

I 経済参画分野:経済活動への参加度及び参画の機会(Opportunity)に関する男女格差

比較項目:(1)労働参加比率、(2)同一労働賃金格差、(3)平均所得格差、

(4)幹部職比率、(5)専門・技術職比率

II 教育分野:教育の機会に関する男女格差

比較項目:(1)識字率、(2)初等教育就学率、(3)中等教育就学率、(4)高等教育就学率

III 健康・寿命分野:健康と寿命に関する男女格差

比較項目:(1)新生児男女比率、(2)平均寿命

IV 政治参画分野:政治参画の度合に関する男女格差

比較項目:(1)女性議員比率、(2)女性閣僚比率、
(3)過去50年間の女性元首(首相等)在任期間

(2)指数化の方法と順位付け

156カ国について上記四つの分野の各比較項目に関する男女それぞれの数値或いは比率のデータを抽出し、この男女のデータについて男性を1とした場合の女性の指数を算定する(最大値は1とする)。この指数の意味は、指数1の場合男女が完全に平等であることを意味しており、指数が低くなればなるほど男女の格差が大きいことを示している。

各比較項目の指数を加重平均したものを、その分野の指数とする。最後に4つの分野の指数を加重平均したものがその国の格差指数であり、156カ国の指数を上位から順に総合順位を付けるのである。

(北欧諸国がトップ独占、日本は韓国にも追い越されて世界121位！)

2. 2021年の男女格差指数世界ランク(末尾表 5-T01 参照)

2021年の世界男女格差ランクのトップ(即ち男女の格差が最も少ない国)は昨年に引き続きアイスランドである。同国の格差指数は0.892で昨年の0.877より向上している。これに続く2位はフィンランド(指数0.861)、3位ノルウェー(同0.849)、4位ニュージーランド(同0.840)であり、5位はスウェーデン(同0.823)がランクされている。上位5か国のうち4カ国は北欧諸国である。昨年の世界ランクと比較すると1位はアイスランドで変わらず、2位と3位は順位が入れ替わり、スウェーデンは昨年の4位から今年は5位である。北欧諸国が上位5か国のうち4カ国を占めていることは変わらない。

日本を含む主要な国々の世界ランクを見ると、英国は23位、米国は30位である。一方アジアの主要な国のランクは韓国の102位をはじめ中国107位、インド140位といずれも世界156カ国中では100位以下の下位グループである。このような中で日本は世界ランク120位であり、インドよりは高いものの、韓国或いは中国を下回っている。

上記6カ国の世界ランクを前回(2020年、対象国数153カ国)に比べると、日本は121位から120位にわずかながらランクアップしている。米国が前回の53位から今回は23ランクアップし世界30位に躍進しているのが注目される。逆にインドは一挙に28ランク下落し、前回の112位から140位

にダウン、日本を下回っている。韓国は昨年の108位から102位に上昇し、中国(107位)を上回っている。

中東の主要国では、イスラエルが世界60位と最も高い。UAEは前回の120位から今回は72位に大幅にランクを上げてイスラエルに続いている。その他の中東諸国はいずれも世界ランク100位以下であり、エジプト129位、トルコ133位、サウジアラビア147位、イラン150位にランク付けされている。エジプトは昨年より5ランクアップし、一方トルコは3ランクさがった結果両国の世界ランクが逆転している。サウジアラビア及びイランは156か国中のほぼ最低ランクにとどまっている。世界最下位の156位はアフガニスタンであるが、そのすぐ上にイエメン(155位)、イラク(154位)、シリア(152位)が並んでおり中東諸国は男女格差が極めて大きい。

(格差が大きい政治分野、小さい教育分野！)

3. 分野別のランクとスコア(末尾表 5-T02 参照)

男女格差指数は(1)経済参画分野、(2)教育分野、(3)健康・寿命分野及び(4)政治参画分野の4つの分野について公表されたデータに基づいて詳細な比較検討が行われている(本稿第1章参照)。本章では第2章で取り上げた国々、すなわち世界の上位5か国及び日本を含む主要各国並びに中東主要国について4分野のスコアと世界ランクを概観する。

(1) 経済参画分野の男女格差

総合世界1位のアイスランドはこの分野でも世界4位(スコア0.846)と高い地位を占めている。米国は30位、英国は55位であるが、日中韓印のアジア4か国は、中国の69位が最も高く、日本は117位、韓国123位、インド151位である。

(2) 教育分野の男女格差

WEF が各国の統計値をもとに判断した教育分野の男女格差は極めて小さい。即ちノルウェー、フィンランド、米国のスコアは1.000であり男女格差が無いとされる。格差指数は1.000が上限であり、国によっては1を超える(即ち女性と男性の逆格差)ケースもあり、教育格差指数1.000は156か国中37か国に達する。また156か国中の半数を超える87か国の格差指数が0.990以上である。

この結果日本のスコアは0.983でありトップ(1.000)との格差は0.017にとどまるが世界ランクは92位である。同様に中国と韓国はスコア0.973で共に世界103位である。中東諸国ではイスラエルがスコア1.000で世界1位グループに入っている。その他 UAE は世界89位(スコア0.987)、サウジアラビア97位(同0.980)であり、エジプト、トルコ、イランは世界100位以下である。但し世界118位のイランのスコアは0.953でトップグループのイスラエル或いはUAEと比べスコア格差はさほど大きくない。

(3) 健康・寿命分野の男女格差

世界1位のスコアは0.980で、ブラジル、ロシア、ミャンマーなど29か国が並んでいる。スコアが

わずか0.007しか違わない0.973の日本は世界順位が65位とされている。この分野の世界最下位は中国であり同国のスコアは0.935である。トップとのスコアの差は0.045で、この格差の中に156か国がひしめいており、わずかなスコアの差がランク上の大きな差となって表れている。

留意すべきは健康・寿命格差は各国の医療福祉水準の良し悪しを比較したものではなく、あくまでも当該国において医療福祉にアクセスする場合の男女の格差を示したものである。先進国、発展途上国を問わず一般に女性の平均寿命が男性よりも長いことは事実であり、指数化して比較すると一見男女格差が無いように見える点に注意すべきであろう。

(4) 政治参画分野の男女格差

この分野の世界1位はアイスランドで同国のスコアは0.760である。これに続く世界2位はフィンランドであるが、同国のスコアは0.669でありアイスランドと大きな開きがある。3位、4位はそれぞれノルウェー、ニュージーランドであり総合順位と全く同じである。日本はスコア0.061、世界順位147位であり、米国(世界37位)、インド(51位)にはるかに及ばず、韓国(68位)、中国(118位)とも大きな差がある。中東諸国と比べても日本はUAE(24位)、イスラエル(65位)、エジプト(78位)と大きな差があり、トルコ(114位)、サウジアラビア(138位)よりも低い。

この分野トップのアイスランドのスコアと日本のスコアの差は0.699と極めて大きい。因みにこの分野の最下位はパプアニューギニアの0.000(即ち男女格差は無限大)であり、4分野の中では国別格差が最も大きい。

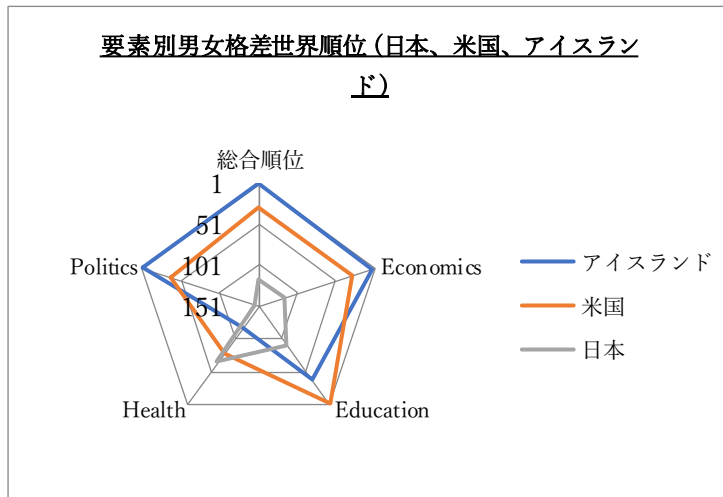
政治の男女格差は女性国会議員数、閣僚数、或いは過去50年間の女性元首(首相等)の在任期間でランク付けされているため全体的に各国ともスコアが低く、また同じ先進国でもヨーロッパに比べ日米のランクが低い結果となっている。

4. 日米中他6カ国の要素別比較(レーダーチャート)

ここでは3カ国を1グループとして3グループ計9カ国を取り上げ総合順位と4つの分野別順位(経済、教育、健康及び政治)をレーダーチャートで表してみる。レーダーチャートは最も外側が世界1位(つまり男女格差が世界で最も小さい)であり、以下中心に向かうほど順位が低くなる(即ち男女格差が大きい)。グラフの実線が外側に広がるほど男女格差が少ないことを示し、また真円に近いほど男女格差のバランスが取れていることを示している。

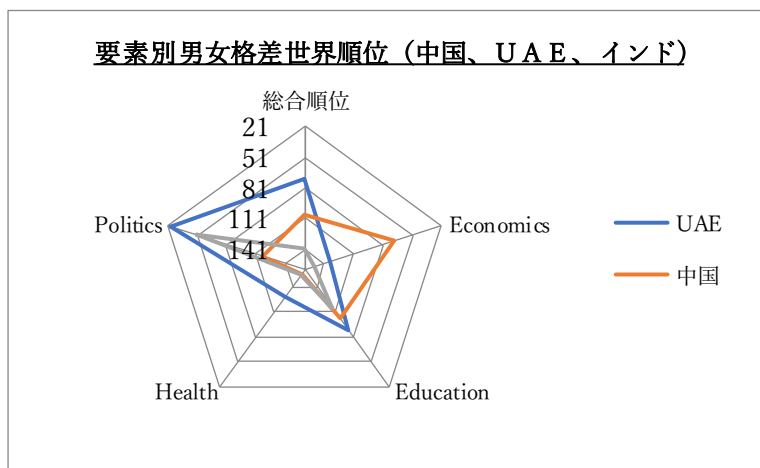
(1) チャート1(日本、米国、アイスランド)

3カ国の総合順位はアイスランドが世界1位、米国30位、日本は120位である。教育分野の男女格差は日本が92位、アイスランド38位、米国は世界1位である。前項で述べた通り世界レベルで見ても教育の男女格差は小さく、格差指数は米国1.000、アイスランド0.999、日本0.983であり指数のわずかな上下で世界ランクが大きく異なる特性がある。



経済分野ではアイスランド4位、米国30位、日本117位である。また政治分野ではアイスランド1位、米国37位、日本147位であり日本が極端に低い。これに対して健康分野は日本65位、米国78位、アイスランド119位であり、総合ランク及び経済・教育・政治の各分野のランクと正反対の様相を呈していることは興味深い。レーダーチャートで見ると健康分野で3カ国の世界順位は大きく後退し、また線が交錯して順位が逆転していることが読み取れる。政治分野では日本がチャートの中心部にあり(即ち世界ランクが低く)、他の2カ国と大きな格差があることがわかる。

(2) チャート2 (UAE、中国、インド)

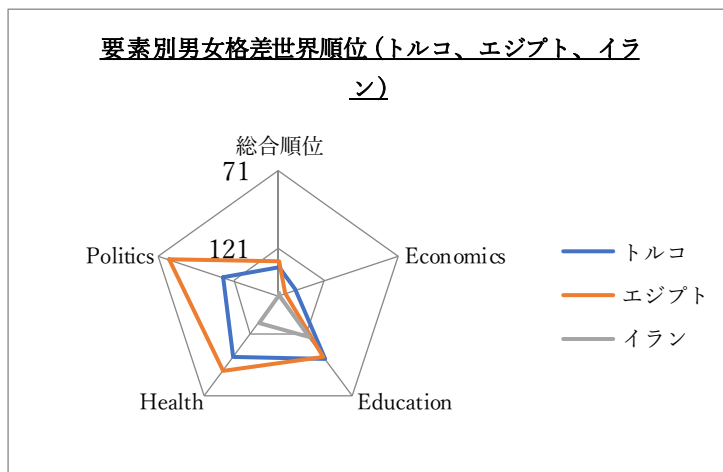


UAE、中国、インドの総合順位は72位、107位及び140位であり、世界ランクではそれぞれ中位グループ、下位グループ及び最下位グループに区分される。経済分野では中国69位、UAE135位、インド151位であり、3カ国の中では中国の男女格差が低い。教育分野の世界ランクはUAE89位、中国103位、インド114位と総合順位に準じたランクとなっている。

一方政治分野のランクはUAEが世界24位で世界的に見てもランクが高く男女格差が少ない。インドも世界51位で上位グループであるが、中国は世界118位であり、3カ国の中では最も低い。

(3) チャート3 (トルコ、エジプト、イラン)

中東の三大国トルコ、エジプト及びイランはイスラーム教国家と言う共通点を持つが、人種的にはトルコ人、アラブ人、ペルシャ人の違いがあり、また政治・経済体制も異なる。しかし男女格差で見るといずれも世界ランクはエジプト129位、トルコ133位、イラン150位と世界の最低レベルにとどまっている。

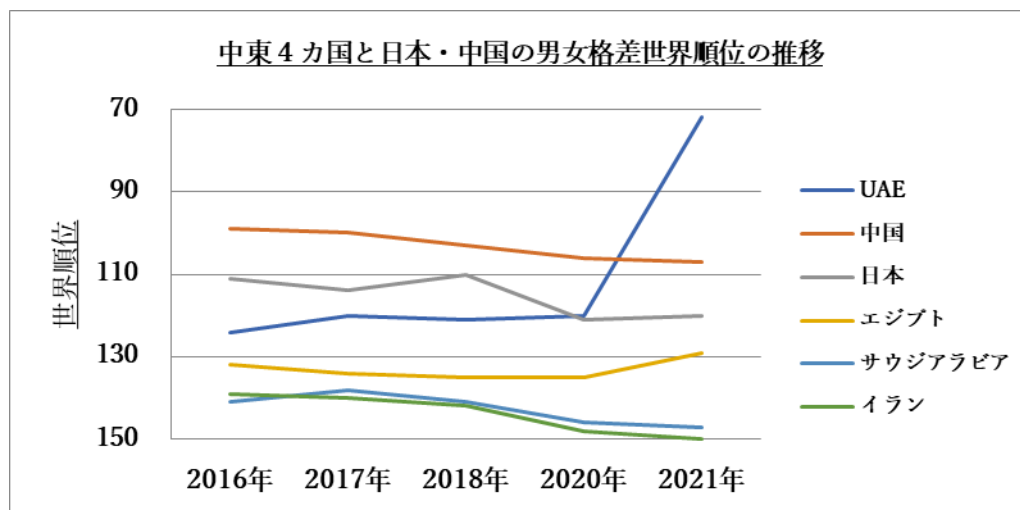


特に経済分野の男女格差はいずれも世界140位以下と言う極端に低い水準である。教育分野はトルコ101位、エジプト103位、イラン118位であり3カ国に大きな差はない。しかし健康分野では世界92位のエジプトに対してイランは世界129位にとどまっている。さらに政治分野ではエジプトが世界でも中位クラスの78位に対してトルコは114位、イランは世界最低水準の151位で

あり3カ国の格差はかなり大きい。

(突如急上昇した UAE !)

5. 2016~2021年の総合ランクの推移



ここでは中東4カ国(UAE、エジプト、サウジアラビア及びイラン)に日本、中国を加えた6カ国の過去5回の世界ランクの推移を検証する。

この6カ国に共通してみられる傾向は、いずれも前回(2020年)まで長期に低落あるいは低迷してきたことである。特に中国及びイランは過去5回を通じて連続して世界ランクが落ちている。即ち中国の2016年から2020年までのランクは99位→100位→103位→106位であり、イランは139位→140位→142位→148位であった。日本及びサウジアラビアも同様に長期下落傾向にある。日本の場合は2016年に111位であり2017年に114位に下落した後、翌2018年には110位に戻ったが2020年には121位まで落ちている(注、2019年は格差報告がなかった)。サウジアラビアは2017年の世界138位をピークにその後4回連続で順位を下げており2020年の男女格差ランクは146位である。またエジプトも2016年の132位から2020年の135位まで年々低下した。

しかし前回から今回にかけて中国、イラン及びサウジアラビアがさらにランクを下げた一方、日本、

エジプト及びUAE3か国はランクが上昇した。日本は121位→120位とわずかなアップにとどまったが、エジプトは135位から129位に上昇している。特に順位の上昇が際立つのは UAE である。同国は前回の120位から今回は一気に72位に急上昇している。同国の各分野ごとの変化を見ると、政治分野が昨年の74位から24位にアップしており、その他の経済、教育、医療分野では大きな変化は見られない。

追記:各分野のスコアとその配分に若干の問題？

WEF の男女格差指数では日本のランクが極めて低く、特に先進国の中で最低のランクとスコアであることはかなりショッキングな内容と言えよう。日本の政治分野の男女格差が諸外国に比べて際立って大きく、また経済分野でも格差の是正が遅れていることは WEF が指摘するまでもなく明らかであり、その点では WEF の評価に異論を唱えるつもりはない。しかしながら4分野のスコアの配分あるいは各分野において一部開発途上の国々がかなり高いスコアを出していることには若干問題があるように見える。

まず各分野のスコアの偏差値がかなり片寄っていることが指摘できる。例えば政治分野は0.760(アイスランド)が最も高く、0.000(パプアニューギニア/バヌアツ)が最も低い。その格差は0.760である。経済分野も政治分野同様スコアの格差が大きい。これに対して健康分野では最高スコア0.980(ブラジル他29カ国)に対し最低スコアは0.935(中国)であり、格差は0.045に過ぎず、教育分野では格差指数最大の1.000が37カ国にのぼっている。総合順位は各項目を加重平均したものであるため偏差値の大きい政治及び経済分野が全体のスコアと順位に影響を及ぼしていると考えられる。

各分野の国別スコアも問題含みと言えそうである。例えば健康分野の最高スコア0.980を与えられた39カ国の中にはナミビア(因みに同国は総合世界6位)、ボツアナなどアフリカ大陸の国々、あるいはブラジル、ドミニカ、エルサルバドルなどの中米諸国が上がっている。また経済分野では北欧諸国とともにアフリカのブルンジ、ギニア、ザンビアなど多くの開発途上国がトップグループに入っており、これらの国の中には独裁政権も混じっている。

スコア算定のデータは国際機関が発表したものも少なくないが、原始データはいずれも各国政府が提供したものである。各国政府が意図的に脚色したデータを提出してもそれを検証することは困難であり、このような意図的改ざんは独裁政権では極めてありがちである点を指摘しておきたい。(以上はあくまでも筆者個人の私見であることをお断りしておく。)

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行

〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601

Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642

E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

男女格差指数ランキング

2021 年			2020 年			2021/2020 年	
世界順位	国名	スコア	世界順位	国名	スコア	順位	スコア
1	アイスランド	0.892	1	アイスランド	0.877	-	-
2	フィンランド	0.861	2	ノルウェー	0.842	-	-
3	ノルウェー	0.849	3	フィンランド	0.832	-	-
4	ニュージーランド	0.840	4	スウェーデン	0.820	-	-
5	スウェーデン	0.823	5	ニカラグア	0.804	-	-
最下位 (156 位)	アフガニスタン	0.444	最下位 (153 位)	イエメン	0.494	-	-
23	英国	0.775	21	英国	0.767	▲ 2	0.008
30	米国	0.763	53	米国	0.724	23	0.039
102	韓国	0.687	108	韓国	0.672	6	0.015
107	中国	0.682	106	中国	0.676	▲ 1	0.006
120	日本	0.656	121	日本	0.652	1	0.004
140	インド	0.625	112	インド	0.668	▲ 28	▲ 0.043
	(中東主要国)			(中東主要国)			
60	イスラエル	0.724	64	イスラエル	0.718	4	0.006
72	UAE	0.716	120	UAE	0.655	48	0.061
133	トルコ	0.638	130	トルコ	0.635	▲ 3	0.003
129	エジプト	0.639	134	エジプト	0.629	5	0.010
147	サウジアラビア	0.603	146	サウジアラビア	0.599	▲ 1	0.004
150	イラン	0.582	148	イラン	0.584	▲ 2	▲ 0.002

Source: Global Gender Gap Report 2021

http://www3.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2021.pdf

2021年男女格差指数ランキング(項目別)

世界 順位	国名	Global Index	Economic Participation and Opportunity		Educational Attainment		Health and Survival		Political Empowerment	
		スコア	ランク	スコア	ランク	スコア	ランク	スコア	ランク	スコア
1	アイスランド	0.892	4	0.846	38	0.999	119	0.964	1	0.760
2	フィンランド	0.861	13	0.806	1	1.000	78	0.970	2	0.669
3	ノルウェー	0.849	20	0.792	1	1.000	119	0.964	3	0.640
4	ニュージーランド	0.840	27	0.763	1	1.000	106	0.966	4	0.630
5	スウェーデン	0.823	11	0.810	60	0.996	133	0.962	9	0.522
最下位 (156 位)	アフガニスタン	0.444	156	0.180	156	0.514	149	0.952	111	0.132
23	英国	0.775	55	0.716	39	0.999	106	0.966	23	0.419
30	米国	0.763	30	0.754	1	1.000	78	0.970	37	0.329
102	韓国	0.687	123	0.586	103	0.973	53	0.976	68	0.214
107	中国	0.682	69	0.701	103	0.973	156	0.935	118	0.118
120	日本	0.656	117	0.604	92	0.983	65	0.973	147	0.061
140	インド	0.625	151	0.326	114	0.962	155	0.937	51	0.276
	(中東主要国)									
60	イスラエル	0.724	65	0.705	1	1.000	119	0.964	65	0.227
72	UAE	0.716	135	0.510	89	0.987	129	0.963	24	0.403
133	トルコ	0.638	140	0.486	101	0.975	103	0.967	114	0.123
129	エジプト	0.639	146	0.421	103	0.973	92	0.968	78	0.196
147	サウジアラビア	0.603	149	0.390	97	0.980	119	0.964	138	0.077
150	イラン	0.582	150	0.375	118	0.953	129	0.963	151	0.036

Source: Global Gender Gap Report 2021

http://www3.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2021.pdf